

SPARC Japan 第 3 期の事業方針について（骨子案）

■ 第 3 期の大方針

「オープンアクセスの推進」を看板に掲げる。

- 我が国の特色に見合ったオープンアクセスを、学会と図書館が協力して推進する。
- 学会と図書館を、オープンアクセス推進の車の両輪と捉える。

■ 組織体制

- 平成 20 年度に、SPARC 運営委員会と学術コンテンツ運営・連携本部の一本化の是非について検討したことを受け、両者を関係付けする方向で検討する。

■ 事業単位

- 平成 20 年度に、SPARC 事業と CSI 事業（学術機関リポジトリ構築連携支援事業）を融合し、「高次の学術コミュニケーション支援」へシフトすることを検討したが、「審議のまとめ（平成 21 年 7 月）」で両者が独立して取り上げられたこともあり、より高次の視点を持ちつつ、第 3 期も独立した事業として実施する。
- SPARC 第 3 期の事業期間は、平成 22 年度～24 年度の 3 カ年を想定する。

■ 具体的なプロジェクト案

➤ 国際学術雑誌パイロット事業の推進

- ◇ 我が国の優れた電子ジャーナルの国際発信力をさらに強化するため、オープンアクセスを前提とした学術出版のビジネスモデルの再構築を図る。
- ◇ コスト回収方法をパターン化し、具体的なモデルケースを取り上げていくつかの学会に対してパイロット事業的に重点支援を行う。
- ◇ 学会、図書館（機関リポジトリ）が持つノウハウを集結し、電子ジャーナルプラットフォームが備えるべき機能要件・仕様を作成し、国際的な編集・査読・流通システムの構築を支援する。

➤ 図書館との連携プロジェクト

- ◇ SCPJ を学会と図書館の共同運営とする。
- ◇ COAR（Confederation Open Access Repositories）、SPARC 等の学術情報流通促進にかかる国際連携をさらに推進し、SPARC Japan がオープンアクセスを支援することを明確にする。
- ◇ 大学図書館との連携活動と、研究者に対する啓発活動を継続的に実施する。

➤ 電子ジャーナル出版活動の展開支援

- ◇ パッケージ化、ポータルによる情報発信を支援する。
- ◇ 海外プロモーションを強化する。